

NEWSLETTER

Feb. 2023 NO.68

発行：特定非営利活動法人リカバリー
〒065-0033
札幌市東区北33条東15丁目1-1
エクセレムビル4F
電話(011)374-6014 FAX(011)374-6041
e-mail recovery@phoenix-c.or.jp
HP <https://npo-recovery.org>



「たくさんのご寄付をありがとうございました」

特定非営利活動法人リカバリー
代表 大嶋 栄子

昨年末にニュースレターをお送りして、すぐに新しい年を迎えました。札幌はこの冬とても寒さが厳しく、最高気温がマイナスという日が続いています。2月には3年ぶりに「さっぽろ雪まつり」が開催されたのですが、終了後に大雪見舞われ毎日の除雪に追われています。みなさまがお住まいの地ではそろそろ梅の便りでしょうか。

さて、この度は財政的危機を迎えた法人にたくさんのご寄付をいただき、ありがとうございました。その後「NPO法人北海道バンク」より融資を受けることが出来まして、なんとか立て直しに向かっております。そして、物価高騰の影響緩和を目的に申請が始まった各種助成金をいろいろと活用しているところです。ただ今後も水光熱費をはじめ様々な価格高騰が続くことが予想されていますので、気を抜くことは出来ませんが、この危機をスタッフや理事をはじめ、法人を運営するみんなで乗り切っていきたいと考えています。

2023年度は、従来の「障害福祉サービス事業」の運営に加えて、法人の収益事業として各種専門職向けの研修、関心があればどなたでもご参加いただける講座を手掛けていく予定です。現在、世界のどこかで大きな自然災害が起り、戦争の集結もなかなか見えません。そうした不安と緊張を、ダイレクトに自分ごととして感じるの難しいかもしれませんが、それらは確実に私たちの暮らしとつながっています。専門職研修や講座では、日本で起こっている社会的問題と言われる事象を取り上げゲストに論じていただきながら、その背景にあるものを捉えて援助関係に生かす、あるいは自分の暮らしを見直していくようなものが開催できたらと思っています。オンラインによる研修や講座が瞬く間に普及し、世界のどこにいても参加が可能となりました。これは新型コロナウイルスがもたらした大きな変化と言えます。このように、法人が直接的援助をおこなうだけでなく、社会的課題により深く目を向け、地域社会にある様々なセクターと共に必要なアクションをおこしていけるような活動を展開していけたらと思います。これからもWEBを活用しながら新たなニュースをお届けできるように頑張っています。

そして来る3月21日(火・春分の日)に、第19回「それいゆまつり」を開催いたします。午前と午後の部に分かれて開催しますので、どうぞみなさまお誘い合わせのうえご参加ください。

午後は「ウイメンズアクションネットワーク」理事長の上野千鶴子さん、「原宿カウンセリングセンター」顧問の信田さよ子さんのお二人による対談をお願いしました。「家族からの脱出」という、まさに現在の日本が抱える閉塞感を象徴するかのようなタイトルですが、どのようなお話となるのか楽しみです。実はお二人に対談をお願いするのは3回目、一度目はそれいゆが生まれて1年を記念した2003年、お二人で著された『結婚帝国一女の岐れ道』をテーマにお話いただきました。二回目は2012年、10周年を記念して『婚活・非婚・バツイチ…結婚難民のゆくえ』というテーマで、札幌コンベンションセンターを会場に対談していただきました。あれから10年が経ちました。これまで、遊びに来てくださっては活動を応援して下さったお二人に、20年目の記念となる対談をお願いできるのを、本当に嬉しく思います。対談チケットの収益は法人の活動に使われますので、どうぞ沢山の皆様にご購入いただけますよう、お願いいたします。

第19回 それいゆまつり 2023.3.21(火・春分の日)



会場：NPO法人リカバリー＆
オンラインのハイブリッド開催！

10時開場 ＊ゆっくりお買い物タイムです。
10:30～ NPO法人リカバリーの活動紹介
11:30～ Live!で当事者研究
12:30～ 閉会の挨拶 ＊午後の部は13:30から

今年も“春分の日”に合わせて「それいゆまつり」を開催いたします。
新型コロナウイルス感染予防の観点から、会場来場者を30人までに限定し、オンラインでもご参加いただけるハイブリッドにいたしました。

午前の部は無料、午後の部は有料となっておりますのでご注意ください。
いずれもPeatixを通してのお申し込みとなりますが、右下のQRコードをご利用いただければスマートフォンからアクセスが可能です。なお午後の対談を会場でご視聴希望の方は、お手数でもお電話でその旨をお知らせください。

会場にお越しいただいたみなさんには、ファームで採れたものを加工しました“粗ごしトマト”をプレゼントいたしますので、お楽しみにいらしてください。また今年は開場と同時に「トラヴァイユそれいゆ」(就労継続B型)の作品販売をおこないます。久しぶりにビーズアクセサリ、“SamaSama”の作品を見ていただけるのが楽しみです。また、ファンの多い“刺し子雑巾”も新しい作品を作ってお待ちしています。

午前の部ではLiveで「当事者研究」をやってみます。コロナ禍では、ほとんどミーティングの時間が取れなかったので、まずは久しぶりに自分の困りごとを言葉にする、他の人たちの話に耳を傾けるという練習をみんなでやってから本番に臨もうと思っています。当事者研究をおこなうのはしばらくぶりどころか、この3年利用される人たち(メンバー)がすっかり入れ替わり、当事者研究を体験したことがないメンバーの方が多数派になってしまいました。自分の困りごとを仲間達と一緒に考えてみるなかから、困りごとのパターンやそれとの付き合い方を探るのが研究の醍醐味ですけど、まずはメンバーたちと「当事者研究ってなに？」からというところからです。果たして本番はどうなるのかしら。

そしてオンラインでご参加のみなさまへ。それぞれの場所からお買い物して下さるのもよし、チャットボックスにフィードバックをくださるのもよし。それぞれのペースでお楽しみいただければ嬉しいです。皆様のご参加をお待ちしています！

● 申し込みURL

<https://soleil-fes-19th.peatix.com>

※右のQRコードでスマホからアクセスできます。



NPO法人リカバリー
soleil設立20周年記念特別企画

オンライン対談
「家族からの脱走」
上野&信田がこれからの展望する

2023.3.21(火・春分の日)
13:30-16:00

※後日配信あり
参加費（応援チケット）：1口3,000円
定員：500名



上野由緒子
ワイメンズ
アクション
ネットワーク
(WAN) 理事長



信田さよ子
原宿カウンセリング
センター顧問

● 申し込みURL

<https://soleil-20th-anniversary.peatix.com>



※右のQRコードでスマホからアクセスできます。

☆チケットは複数枚ご購入いただくことが可能です。ぜひNPO法人リカバリーの活動を応援
いただけると嬉しいです。

☆お支払い方法はクレジット、コンビニ/ATM決済、PayPalになります。

● その他留意事項

*本対談は、「ZOOMウェビナー」で配信されます。当日までに「ZOOMアプリ」をインス
トールしてください。

*Peatixでのお申込み完了後、Peatix経由のメールで参加方法をご案内します。

*当日は、Peatixから届いたメールの「イベント視聴ページに移動」をクリックし、次の画面
で「イベントに参加」をクリックするとZOOMに接続されます。

*配信30分前に、上記クリックボタンを有効化します。お時間までお待ちください。

*迷惑メール設定などを変更し、Peatixからのメール（noreply@peatix.com）が届くよう
設定をお願いします。

*申込後、メールが届かない場合やキャンセルをご希望される場合は、運営側で手続きを
進めることとなりますので、下記の担当者までご連絡ください。ご不明な点がございまし
たら、下記に掲載している電話もしくはメールにてお問い合わせください。

お問い合わせ先：NPO法人リカバリー 担当：東谷（あずまや）

E-Mail info@recovery-soleil.com TEL 011-374-6014

「連載を書く」

by 大嶋 栄子

つい最近、2年にわたって書いていた連載が1本終了しました。日本評論社が発行している雑誌『こころの科学』に、「逆境からのリカバリー」というタイトルで隔月掲載されていました。ちょうど、札幌にある女子刑務所のなかで新しい試みが始まったばかりでした。薬物事犯で服役中の女性を対象に、塙の中でただ刑務作業をするのではなく、彼女たちが覚醒剤を使用するに至った経緯を振り返ってみる。そして今までとは全く異なる視点で、塙の外へ戻ったときの暮らしについて考えていく。「それいゆ」がこれまでやってきたように、生きるのが大変な女性たちと、自分の取説を作っていくような感じで一緒にやれそうなプログラムを作りました。



とまあ、書くとあっさりしているんだけど、ここまでのことが実現するのも、沢山の壁が立ちはだかったんですね。半分は「やっぱりね」だったし、半分は「いい加減にしるよ」だった。

その時々で、目の前にいる女性たちに対しては誠実に向き合ってきたけれど、何しろ塙のなかには多くのダメが転がっていたので、途中で何度も投げ出したい気持ちになりました。性格悪くなるわー。

それだけでなくたくさんの仕事を抱えていたのですが、それでもこれを記録と記憶に残しておかなくちゃってお世話になっている編集者さんに「連載を書きたいのですが」と相談したのです。WEB媒体も可能性があったけど、とてもいい論考だと思っても、読み終わって忘れてしまう自分のことを思ったわけです。一方で紙媒体の『こころの科学』は、幅広い領域の対人援助職(教員も含めて)が購読しているというのが決め手となりました。何度か寄稿していた関係もあって、編集のKさんをお願いしてみたところ、社内でOKが出て無事に連載がスタート。

毎回8000字ということで、女子刑務所のことだけでなく“それいゆ”で起こっているすっごくミクロな事柄からマクロな現象について考えさせられることなどを、書いてきました。ようやく出せたと思ったらすぐに次の締め切りが来て、自分のインプットの不十分さを痛感したことは一度や二度じゃない。大学の図書館がコロナで使えず、文献検索が思うように進まなくて大変でした。その一方で、以前に比べると多くの論文はダウンロードが可能になっていて、自分が図書館で閉館ギリギリまで文献に当たっていた時が懐かしいです。

先日、連載の最終回が掲載された見本誌が送られてきました。本当に締め切りすぎではKさんをヒヤヒヤさせてきた自分を反省すると同時に、約束の2年間を無事に書き切って嬉しい気持ちでいっぱいです。女子刑務所の試みはモデル事業ということで始まり、私たちが関わるのは残り1年となりました。すでに出所した女性たちとは(法人が「地域支援コーディネート業務」を担当していた時期の対象者に限定されますが)、その後もいろいろな危機を乗り越えながらつながっています。本当に、彼女たちを見ているとハラハラしっぱなしなんですけど、どっこい生きています(笑)。たくましいわあー。本当に生きていって大変なことなんだと思わされることばかり。

連載は終わっても、彼女たちとの付き合いはこれからも続きます。どんなナラティブがこの後続いていくのか、また記録し記憶しておかないと忘れ去られるので、この作業は続くのかな。

さて、現在のところ抱えている連載は1本。障がい福祉領域でたくさんのファンがいる、雑誌『コトノネ』にて「Cafe Soleilの窓から」というページをもっています。こちらはなんと5年目に入りました。ありふれたCafeの日常から見える嬉しいこと、そして悲しかったことなどを書いています。編集者Hさんとは同じ札幌出身で、美味しいもの話で盛り上がります。連載は、小さいけど大切な関係や、はっとするナラティブとの出会いによって支えられているのでした。